

『極め、広げる放射線技術学』

第73回日本放射線技術学会総会学術大会
実行委員長 松原 孝祐



第73回日本放射線技術学会総会学術大会がその一翼を担う、Japan Radiology Congress(JRC)2017の大会テーマは、「極めよう放射線医学、広げよう放射線診療：To the Summit of Radiology, To the Horizon of Radiology」です。放射線医学の頂点を目指すための研究を行っていくことはもちろん、教育を通して放射線診療の裾野をしっかりと広げていくことも大切です。裾野を広げることによって、頂点をさらに高くすることができるという相乗効果もあります。そのような意味で、本学術大会では放射線技術学の観点から、教育・研究の双方に重点を置いた企画を多数用意させていただきました。

企画者である私の立場から、是非注目いただきたい企画をいくつか紹介させていただきます。まずは合同開会式の後の合同特別講演1として、元サッカー日本代表の中田英寿氏による「中田英寿氏 スペシャルトーク」があります。中田氏の現役時代のエピソードや引退後の活動などを対談形式で伺う予定です。また、合同特別講演2では、量子科学技術研究開発機構理事長の平野俊夫先生に、量子医学・医療の将来展望についてご講演いただきます。合同シンポジウム1では、「放射線医学・診療を極め、広げるために」と題しまして、画像診断学、IVR、放射線治療学、放射線技術学、医学物理学のそれぞれの側面から、放射線医学を極め、放射線診療を広げるための取り組みについてご講演いただきます。合同シンポジウム2では「放射線医療に関する国際規格・プロトコール」というテーマで、合同シンポジウム3では「小児画像診断における被ばくの現状と課題」というテーマで、それぞれ各分野を代表する国内外の先生方に、最先端の内容についてご講演いただきます。

本学会と日本医学物理学会との合同企画としましては、Radiological Physics and Technology 誌の10周年を記念した特別企画として、シンポジウム「Radiological Physics and Technology ー物理・技術の協調と将来ー」を開催いたします。また、JSRT-JSMP Joint Session Plenary Lectures として、近年注目されている「Radiomics」および「Patient Radiation Dose Monitoring and Tracking Systems」の最新情報を、それぞれ米国から講師をお招きしてご講演いただきます。

本学会が企画するシンポジウムも、「放射線技術科学としてとらえる“読影の補助”」「医用工学と放射線技術科学との融合：期待される新技術」「リーディングウーマンと考える放射線技術学」という、どれも非常に興味深いテーマばかりです。さらに、昨年の北米放射線学会で機械学習や人工知能が注目を集めたことは記憶に新しいですが、本学術大会でもその流れに乗って、「AIの放射線医学・技術学への挑戦 ーIBMワトソンとディープラーニングー」と題した実行委員会企画シンポジウムを特別企画いたしました。あのIBM Watsonを開発された先生にご講演いただくとともに、放射線医学・技術学におけるAI・ディープラーニングの現状と将来、および最新の研究事例をご講演いただくという、まさに最先端の内容です。是非ご注目ください。

各種委員会・専門部会の企画も、関係の先生方に厳選いただいた、大変充実した内容の企画ばかりです。また、実行委員会からは教育・発表支援に重点を置いた企画として「放射線科医から学ぶ画像診断の基礎シリーズ」「基礎から学べる放射線技術学シリーズ」「英語発表支援セミナー」を用意させていただきました。さらに、学生セッションである「Next Generation Session」では、新たな試みとして“研究紹介コンクール”を開催します。本来はこれら1つ1つの企画を紹介したいところではありますが、この続きは是非会場に足を運んでいただき、実際にご自身の目や耳で、その内容をご確認いただければと思います。

本学術大会では、口述発表の約45%が英語での発表を予定しています。これは昨年を上回り、かつ過去最高の数字であり、発表者の皆様から敬意を表します。本学術大会では、発表時に「発表者用メモ表示(発表者ツールに相当する機能)」を使用することができます。英語発表の対策などには是非ご活用ください。そして、海外からも招待演者、一般発表演者をはじめとする、多くの方々にご参加いただく予定です。一步一步、着実に歩みを進める本学会の国際化にも是非ご注目ください。

文末ながら、大会開催委員会、プログラム委員会をはじめとする各種委員会・専門部会の先生方、演題審査員の先生方、学会事務局の皆様、JRC事務局の皆様のお力添えによってこの大会が開催できますことを、実行委員を代表して御礼申し上げます。実行委員一同、皆様のご参加を心よりお待ちしております。